

令和6年2月15日
第1回環境審議会 資料3

現行計画の評価と第3次環境基本計画等で検討すべき 事項（案）

1. 現行計画の評価

1) 評価の考え方と評価方法

(1) 評価の考え方

立川市第2次環境基本計画で掲げている4つの基本方針及び2つの基盤的取組に関する基本方針に対し、事業等の見直しの必要性について把握することを目的に、総合的な評価を行いました。

評価方法については、計画にある『指標』をもとに事業の進捗や目標の達成度について評価する定量的な評価を実施しました。

また、定量的な評価に加えて、昨今の社会的な動向やアンケート調査結果を基にした「満足度」「向上度」などの定性的な評価を加えて、総合評価を実施しました。

(2) 評価方法

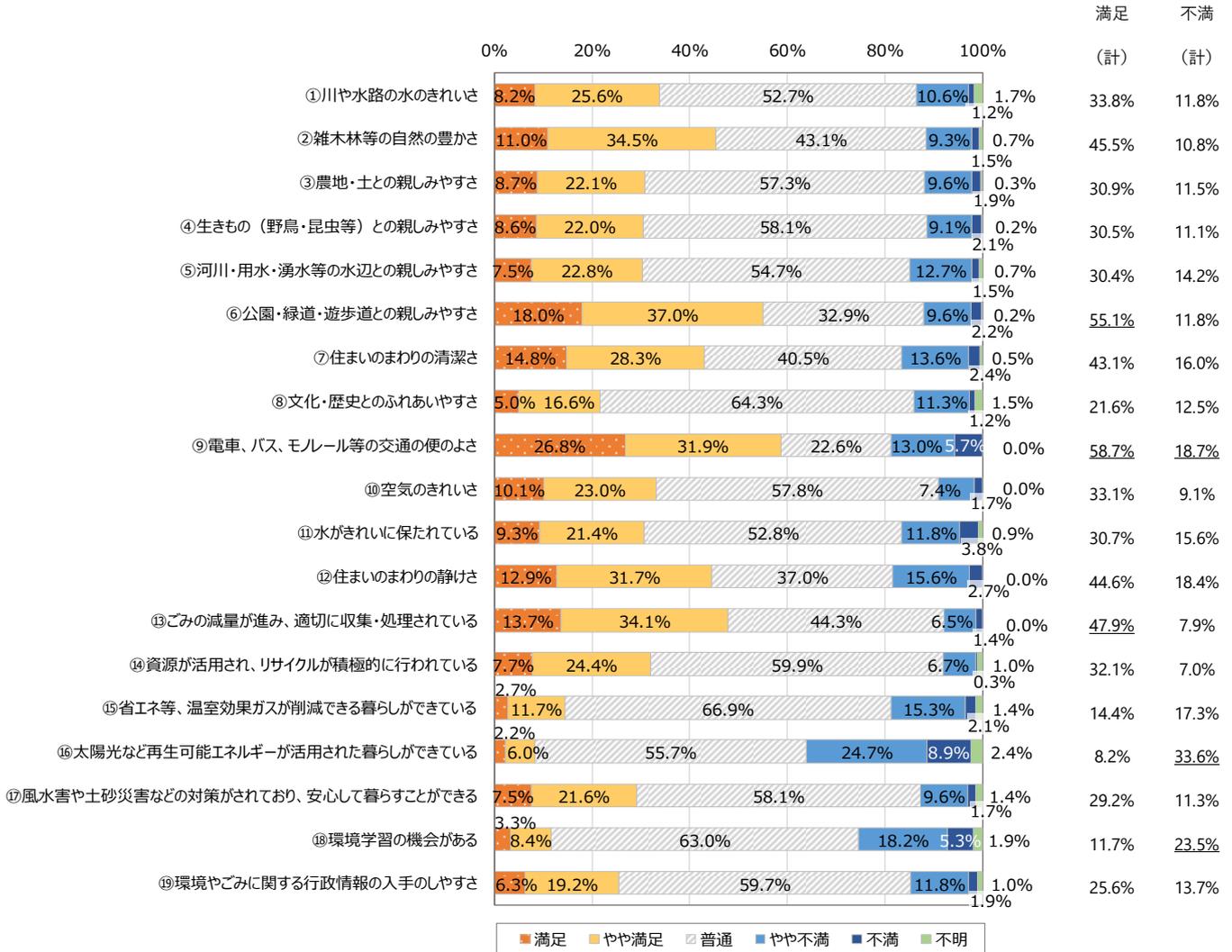
それぞれの指標及び評価方法を整理しました。

指標		示すもの	評価方法
定量評価指標	①取組指標	事業の評価。 参照先：「たちかわし環境ブック」の目標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度時点での達成状況 →達成に「○」 到達率 →「R4実績値/R6目標値」を算定 ※指標によっては「R6目標値/R4実績値」で算定
	②成果指標	現在の環境の状態を示すもの。 参照先：「たちかわし環境ブック」	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度時点での達成状況 →達成に「○」 到達率 →「R4実績値/R6目標値」を算定 ※指標によってはR6目標値/R4実績値で算定 ※目標値がない場合は参考とする
参考指標	③満足度	現在の環境状態の満足度を表すもの。 参照先：アンケート調査で把握した「立川市の環境に対する満足度」	<ul style="list-style-type: none"> 定性評価の参考指標とする
	④向上度	環境の改善の成果を表すもの。 参照先：令和5年度と平成30年度(第2次環境基本計画改定時)実施アンケート結果の比較	
総合評価		定量的評価と定性的評価をもとに、現行計画の方針に定める目標の達成状況、事業等の見直しの必要性を含めて総合的に評価したもの	

(3) 満足度と向上度の結果 (アンケート調査報告書より抜粋)

○満足度

満足度については、令和5年度に実施したアンケート調査のうち、「立川市の環境に対する満足度」の「満足」及び「やや満足」と回答した割合となる「満足(計)」を参照しました。



『満足(計)』: 「満足」「やや満足」の合計
 『不満(計)』: 「やや不満」「不満」の合計

○向上度

向上度については、令和5年度と平成30年度のアンケートで同一項目に限定し、「満足」及び「やや満足」と回答した割合を比較し、以下のとおり算定しました。

市民アンケート満足度の向上度

項目	令和5年度	平成30年度	向上度
①川や水路の水のきれいさ	33.8%	35.9%	-2.1
②雑木林等の自然の豊かさ	45.5%	40.6%	4.9
③農地・土との親しみやすさ	30.9%	24.8%	6.1
④生きもの（野鳥・昆虫等）との親しみやすさ	30.5%	25.7%	4.8
⑤河川・用水・湧水等の水辺との親しみやすさ	30.4%	26.8%	3.6
⑥公園・緑道・遊歩道との親しみやすさ	55.1%	50.8%	4.3
⑦住まいのまわりの清潔さ	43.1%	43.8%	-0.7
⑧文化・歴史とのふれあいやすさ	21.6%	15.3%	6.3
⑨電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ	58.7%	57.8%	0.9
⑩空気のきれいさ	33.1%	36.2%	-3.1
⑫住まいのまわりの静けさ	44.6%	44.7%	-0.1
⑬環境やごみに関する行政情報の入手のしやすさ	25.6%	43.3%	-17.7

ただし、「資源」及び「温暖化」分野については、平成30年度のアンケートにおいて満足度の設問がなかったため、環境活動における行動率について、過去の調査結果と比較できるように、以下の方法で算定し参考としました。

●算定方法：「取り組んでいる環境活動」の回答率

行動率 = 「いつも行っている」回答率(%) + 「時々行っている」回答率 (%)

向上度 = 【令和5年度実施アンケート行動率】 - 【平成30年度実施アンケート行動率】

市民アンケート行動率の過去との差

項目	令和5年度	平成30年度	向上度
① 照明や OA 機器等はこまめにスイッチを切る	91.4%	94.9%	-3.5
③ 冷蔵庫のドアの開閉は、回数や時間を減らすようにする	83.5%	87.1%	-3.6
⑤ 外出するときは、マイカーを控え、徒歩や自転車、公共交通機関を利用する	70.3%	73.9%	-3.6
⑦ 不要・過剰な包装は断る	83.0%	88.5%	-5.5
⑧ リサイクル可能なもの、詰め替え製品や再生品を購入する	82.5%	88.2%	-5.7
⑨ 買い物をするときは、エコマークなどの環境ラベルを参考にする	39.8%	44.5%	-4.7
⑩ 買い物の際にはマイバッグを持参する	94.2%	88.1%	6.1
⑬ 生ごみはよく水を切って出す	84.4%	92.2%	-7.8
⑮ 食用油は処理剤や新聞紙などに浸み込ませて可燃ごみとして出す	74.8%	82.8%	-8.0
⑯ 資源とごみの分別を徹底する	97.3%	97.5%	-0.2

2) 評価の結果

(1) 基本方針1 暮らしに安心を与えるまちづくりを進めます

● 目標：市民が暮らしのまわりの環境に満足しているまちであることを目指します

- 取組の方向性
- (1) 健全な水循環の確保と良好な大気環境等の保全
 - (2) 環境負荷の少ない交通環境の整備
 - (3) 心地よく生活できる街並みづくり
 - (4) 環境に関するマナー・モラルの向上

(1) -1 指標及び評価一覧

区分	項目	目標値 (令和6年度)	計画改定時 (平成30年度)	現在の値 (令和4年度)	達成 状況	到達率
① 取組指標	(1) 河川調査地点における BOD の環境基準達成率	100%	100%	100%	○	100%
	(1) 市内測定局における大気環境基準達成率	100%	83.3%	83.3%		83.3%
	(1) 公害の規則違反により勧告・停止命令に至った件数	0 件	0 件	0 件	○	100%
	(2) 自動車等の交通量 (測定地点 8ヶ所の合計)	135,894 台以下	135,894 台	132,912 台	○	100%
	(2) コミュニティバスの収支率	40.0%	34.7%	31.8%		79.5%
	(2) 1日当たりの 市内放置自転車台数	90 台	175 台	67 台	○	100%
	(3) ロードサポーター活動実績 団体数	20 団体	6 団体	21 団体	○	100%
	(4) 喫煙マナーアップキャンペーン の実施回数	20 回	20 回	18 回		90.0%
	(4) 地域猫活動登録団体数	55 団体	45 団体	24 団体		43.6%
② 成果指標	居住する地域は住みやすいと感じている市民の割合	-	87.3%	89.4%	-	-
区分	アンケート項目					
③ 満足度	⑤ 河川・用水・湧水等の水辺との親しみやすさ					30.4%
	⑦ 住まいのまわりの清潔さ					43.1%
	⑨ 電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ					58.7%
	⑩ 空気のきれいさ					33.1%
	⑪ 水がきれいに保たれている					30.7%
	⑫ 住まいのまわりの静けさ					44.6%
④ 向上度	⑤ 河川・用水・湧水等の水辺との親しみやすさ					3.6
	⑦ 住まいのまわりの清潔さ					-0.7
	⑨ 電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ					0.9
	⑩ 空気のきれいさ					-3.1
	⑫ 住まいのまわりの静けさ					-0.1

(1) -2 主な市の取組（令和4年度実績）

- ・環境法令等に基づく環境測定調査の実施
- ・東京都環境確保条例に基づく揚水量の実態把握および、湧水量の定点調査
- ・雨水ます等の改良及び雨水浸透施設の清掃などの雨水対策
- ・ロードサポーター事業を通じた地域の美化活動の推進
- ・立川市喫煙制限条例に基づく啓発活動
- ・地域猫活動団体への補助金交付制度の運用

(1) -3 総合評価結果

総評： 概ね現行計画の目標を達成しているが、一部の事業内容等を見直し
<ul style="list-style-type: none">● 大気・水質等の環境保全について、市内測定局における光化学オキシダントを除く大気環境基準及び河川調査地点におけるBODの環境基準を満たしており、概ね良好な環境状態が保たれています。また、公害苦情の受付件数についても減少傾向を示しており、今後も継続的な監視及び、法令に基づく指導・助言が求められます。● 健全な水循環の確保については、下水道の管理の一環として雨水対策を着実に推進しています。昨今の気候変動影響に伴う降水量の変化も踏まえ、今後も、揚水量及び湧水量の実態把握に努めるとともに、健全な水循環の確保を継続することが重要です。● 交通環境について、交通の利便性や静けさの満足度、向上度がともに良好であり、関連する取組指標の達成率も比較的高い状況です。今後は、事業を継続的に取り組んでいくとともに、地球温暖化対策に寄与した事業のさらなる展開を求められます。● ロードサポーター事業を通じた地域の美化活動の推進や立川市喫煙制限条例に基づく啓発活動について、コロナの影響により減少傾向であった実施状況も回復の兆しを見せており、着実に事業を推進しています。アンケート結果から、「まちの美化」に対する市民の関心が高いことがわかっており、引き続き、まちの美化の推進に向けた積極的な取り組みが求められています。● 一方で、地域猫活動の登録団体数については、構成員の高齢化などの課題から減少傾向にあり、今後の事業方針について、実態に即した指標の設定を含めて検討が必要です。

(2) 基本方針2 水と緑、生きものと調和したまちづくりを進めます

●目標：水と緑、生きものが身近にあり、人の活動と調和したまちであることを目指します

- 取組の方向性
- (1) 守り育ててきた水辺と緑地の保全
 - (2) 新たな水辺と緑地の創出
 - (3) 生きものの多様性の確保
 - (4) 水や緑とともにある歴史・文化にふれあえる環境の確保

(2) -1 指標及び評価一覧

区分	項目	目標値 (令和6年度)	計画改定時 (平成30年度)	現在の値 (令和4年度)	達成 状況	到達率
① 取組 指標	(1) 保護樹林地面積	17,578 m ²	17,578 m ²	15,504 m ²		88.2%
	(1) 保存樹木数	483 本	478 本	448 本		92.8%
	(1) 都市農地（生産緑地）の面積	190ha 以上	199.9ha	194.4ha	○	100%
	(2) 立川市の管理する都市公園 および都市公園以外の公園の面積	64.2ha	63.5ha	64.3ha	○	100%
	(2) 公園等清掃美化協力員会管理の 公園数	76 公園	73 公園	77 公園	○	100%
	(3) 立川いきものデータベース 掲載数	10,000 件	3,034 件	8,982 件		89.8%
	(3) 自然観察会等の開催回数	2 回	2 回	2 回	○	100%
	(4) 日頃から文化芸術に触れる機会 がある市民の割合	52.0%	46.1%	48.2%		92.7%
	(4) 歴史民俗資料館収集資料点数	17,200 点	16,589 点	18,348 点	○	100%
② 成果 指標	身近に緑や自然を感じる機会がある 市民の割合	85.0%	82.2%	87.9%	○	100%
区分	アンケート項目					
③ 満足 度	①川や水路の水のきれいさ					33.8%
	②雑木林等の自然の豊かさ					45.5%
	③農地・土との親しみやすさ					30.9%
	④生きもの（野鳥・昆虫等）との親しみやすさ					30.5%
	⑥公園・緑道・遊歩道との親しみやすさ					55.1%
	⑧文化・歴史とのふれあいやすさ					21.6%
④ 向上 度	①川や水路の水のきれいさ					-2.1
	②雑木林等の自然の豊かさ					4.9
	③農地・土との親しみやすさ					6.1
	④生きもの（野鳥・昆虫等）との親しみやすさ					4.8
	⑥公園・緑道・遊歩道との親しみやすさ					4.3
	⑧文化・歴史とのふれあいやすさ					6.4

(2) - 2 主な市の取組（令和4年度実績）

- ・ボランティアとの協働による市管理緑地・樹林地等の保全活動
- ・公園等清掃美化協力員会制度の運用による公園の維持・管理
- ・立川いきものデータベースの活用による、生物多様性の普及啓発
- ・自然観察会の実施

(2) - 3 総合評価結果

総評：概ね現行計画の目標を達成しているが、一部の事業内容等を見直し

- 水辺と緑地の保全について、ボランティアとの協働体制が整っており、満足度・向上度ともに良好な状態を保っている一方で、現存する保存樹木数については減少傾向にあり、保護樹林地・保存樹林制度の積極的な活用や指定の推進をより強化していくことが求められます。
- 水辺と緑地の創出について、開発行為等に伴う公園整備により公園面積が微増しており、引き続き計画的な公園整備や緑地の確保を進めていく必要があります。加えて、整備の量だけでなく、身近な自然にふれあえる空間や、様々な生物の生育・生息場所などの整備の質についても配慮することが求められます。
- 生きものの多様性の保全について、「立川いきものデータベース」のデータ数は着実に蓄積されており、生物多様性の普及啓発に大きく貢献しています。今後は、蓄積したデータの活用が期待されます。
- 歴史・文化にふれあえる環境の確保について、歴史民俗資料館収集資料点数を高い水準で目標達成できており、満足度・向上度も良好な数値を保っていることから、事業を継続的に推進することが重要です。

(3) 基本方針3 ごみを減らし、資源を有効利用するまちづくりを進めます

- 目標：本市全体でごみの減量、資源の有効利用を意識したまちであることを目指します
- 取組の方向性
 - (1) ごみ減量の推進
 - (2) 資源の有効利用
 - (3) 安定したごみ処理

(3) -1 指標及び評価一覧

区分	項目	目標値 (令和6年度)	計画改定時 (平成30年度)	現在の値 (令和4年度)	達成 状況	到達率
① 取組 指標	(1) 家庭ごみ排出量	35,020t	36,297t	36,729t		95.3%
	(1) 事業系ごみ排出量	6,640t	13,555t	12,512t		53.1%
	(2) 食器再使用システムの利用団体数	60 団体	60 団体	2 団体		3.3%
	(2) 資源化率	45.1%	43.2%	44.1%		97.8%
	(3) 施設稼働率 (旧清掃工場)	100.0% (令和4年度)	100.0%	97.9%		97.9%
	(3) 施設稼働率 (総合リサイクルセンター)	100.0%	89.0%	97.7%		97.7%
② 成果 指標	燃やせるごみ量	22,483t	25,504t	26,799t		83.9%
区分	アンケート項目					
③ 満足 度	⑬ごみの減量が進み、適切に収集・処理されている					47.9%
	⑭資源が活用され、リサイクルが積極的に行われている					32.1%
④ 向上 度	⑦不要・過剰な包装は断る					-5.5
	⑧リサイクル可能なもの、詰め替え製品や再生品を購入する					-5.7
	⑨買い物をするときは、エコマークなどの環境ラベルを参考にする					-4.7
	⑩買い物の際にはマイバッグを持参する					6.1
	⑬生ごみはよく水を切って出す					-7.8
	⑮食用油は処理剤や新聞紙などに浸み込ませて可燃ごみとして出す					-8.0
⑯資源とごみの分別を徹底する					-0.2	

(3) -2 主な市の取組 (令和4年度実績)

- ・ごみ分別アプリの配信等による分別収集の徹底
- ・立川市クリーンセンターたちむにいの施設見学受け入れによる意識啓発
- ・ごみ減量情報誌「西砂からの風」の発行による意識啓発
- ・食器再使用システムの運用
- ・「たちかわフリーマーケット村」によるごみ減量等普及イベントの実施
- ・「おもちゃの病院」によるリサイクル活動支援の実施

(3) - 3 総合評価結果

総評：現行計画の目標を達成しておらず、事業内容等を再検証

- ごみ減量の推進について、満足度評価は高く、コロナの影響により一時増加していた家庭ごみ排出量も減少傾向に転じていますが、目標は達成できていないことから、事業の強化が必要と考えられます。
- 資源の有効活用については、コロナの影響により、食器再使用システムの利用団体は減少していましたが、今後の回復状況を見据えた事業展開が必要とされています。
- フリーマーケットの開催や「おもちゃの病院」を通じた意識啓発について積極的に取り組んでおり、事業の継続が望まれるとともに、市民取組の向上度が大きく低下している項目については、意識啓発の強化を検討する必要があります。
- 循環型社会の実現の観点から、従来の取組を維持しつつ、今後は社会問題となっているプラスチックごみや食品ロス等の取組を強化していくことが求められています。
- 施設の稼働については、機器の故障などにより目標を達成できていませんが、令和4年度より立川市クリーンセンターたちむにいでごみの受け入れを開始したことに伴い、指標含め方向性を見直す必要があります。

(4) 基本方針4 地球温暖化の防止を目指したまちづくりを進めます

●目標：日常生活、消費行動、事業活動など、さまざまな場面で地球温暖化の防止を目指すまちづくりを推進します

- 取組の方向性
- (1) 省エネルギー対策の推進
 - (2) 再生可能エネルギー等の導入推進
 - (3) 低炭素まちづくりの推進

(4) -1 指標及び評価一覧

区分	項目	目標値 (令和6年度)	計画改定時 (平成30年度)	現在の値 (令和4年度)	達成 状況	到達率
① 取組 指標	(1) 公共施設における温室効果ガス 排出量	19,637 t-CO ₂ eq	23,796 t-CO ₂ eq	19,201 t-CO ₂ eq	○	100%
	(2) 公共施設における再生可能 エネルギー導入施設数	10 施設	5 施設	6 施設		60.0%
	(3) 温暖化防止に取り組んでいる 市民の割合	90.0%	83.9%	89.0%		98.9%
	(3) 低炭素まちづくりの概念を 取り入れた施策数	37 施策	-	37 施策	○	100%
② 成果 指標	立川市全体のエネルギー消費量	6,210 TJ	7,127TJ (平成28年度)	6,979TJ (令和2年度)		89.0%
区分	アンケート項目					
③ 満足 度	⑮省エネ等、温室効果ガスが削減できる暮らしができています					14.4%
	⑯太陽光など再生可能エネルギーが活用された暮らしができています					8.2%
④ 向上 度	①照明やOA機器等はこまめにスイッチを切る					-3.5
	③冷蔵庫のドアの開閉は、回数や時間を減らすようにする					-3.6
	⑤外出するときは、マイカーを控え、徒歩や自転車、公共交通機関を利用する					-3.6

(4) -2 主な市の取組（令和4年度実績）

- ・夏期の節電対策として、普及啓発活動の実施
- ・「クールシェア」の推進
- ・「家庭で取組むエコチャレンジ2022」の開催
- ・熱中症対策として、「ひと涼みスポット」マップによる周知および、防災無線等を活用した熱中症予防の呼びかけ
- ・商工会議所と連携し、中小企業のCO₂排出量削減に向けた情報発信
- ・省エネルギー診断の推進
- ・省エネルギー診断に基づく補助金の交付

(4) - 3 総合評価結果

総評： 概ね現行計画の目標を達成しているが、一部の事業内容等を見直し

- 省エネルギー対策の推進については、「家庭で取組むエコチャレンジ」の開催や、夏期の節電対策として、積極的な普及活動を推進しているものの、満足度・向上度ともに芳しくない結果となっており、さらなる事業の展開が求められます。
- 再生可能エネルギー等の導入推進について、公共施設への導入施設数が目標を達成できておらず、率先垂範として今後のさらなる展開が期待されます。また、満足度が低い要因として、事業者を対象とした省エネルギー診断やそれに基づく補助金の交付等の事業展開は見られますが、市民を対象とした事業が十分でないことが考えられ、具体的な事業の検討が必要です。
- 低炭素なまちづくりの推進については、社会動向の大きな変化を受けて、さらなる展開を求められており、まち全体が二酸化炭素の排出が少ない構造となるように、エネルギーを効率的に利用できる環境整備を行っていく必要があります。

(5) 基盤的取組に関する基本方針 1

良好な環境を保全・再生・創出する活動を広げ、継承します

- **目標**：多様な主体のそれぞれが環境に配慮して行動するまちであることを目指します
- **取組の方向性**
 - (1) 環境学習機会の拡充
 - (2) 環境配慮行動の実践
 - (3) 誰もが参加できる協働の推進

(5) -1 指標及び評価一覧

区分	項目	目標値 (令和6年度)	計画改定時 (平成30年度)	現在の値 (令和4年度)	達成 状況	到達率
① 取組 指標	地域の活動に参加している市民の割合	40.0%	31.3%	28.8%		72.0%
区分	アンケート項目			算定値 (令和5年度)		
③ 満足 度	⑱環境学習の機会がある			11.7%		
	⑲環境やごみに関する行政情報の入手のしやすさ			25.6%		

(5) -2 主な市の取組 (令和4年度実績)

- ・環境意識の高い人材の育成を目的とした、環境学習講座の実施
 - ・生涯学習推進センターによる環境学習体験の機会提供
- <協働プロジェクトの取組状況>
- 目指そう！エコなまち
 - ・立川商工会議所により、環境コミュニティ特別委員会が設置され、「環境行動計画」の策定、地球温暖化対策事業を推進
 - ・「みんなでつくる生き活きとした立川プロジェクト」に基づきセミナーやシンポジウムを実施
 - ・商工会議所の会員に対して、立川市の省エネ対策支援を紹介することで省エネ事業所への更新を促進
 - 目指そう！水と緑と生きものを感じられるまち
 - ・NPO法人教育支援協会東京西と市が『立川いきものデータベース』を運営
 - 目指そう！クリーンなまち
 - ・立川商工会議所や立川市商店街振興組合連合会などの関係団体と連携し、マイバッグ推奨運動を展開
 - ・食べきり協力店事業や「てまえどり」運動による食品ロスへの意識啓発
 - ・事業所訪問調査の実施による事業系廃棄物の資源混入の課題解決に向けた活動

(5) -3 総合評価結果

総評： 現行計画の目標を達成しておらず、事業内容等を再検証
<ul style="list-style-type: none"> ●環境学習機会の拡充や協働の推進について、目標を達成できておらず、市民満足度も低い状況であることから、計画の方向性や指標設定の適正化について、再検討が必要と考えられます。 ●一方で、協働プロジェクトについては、各関連団体と連携し、一定の成果が出ていることから、継続的に連携を強め、今後のさらなる展開が期待されます。

(6) 基盤的取組に関する基本方針2 市が率先して環境に関する取組を進めます

- 目標：市の率先した取組が市民・事業者の行動を促しているまちであることを目指します

(6) -1 指標及び評価一覧

区分	項目	目標値 (令和6年度)	計画改定時 (平成30年度)	現在の値 (令和4年度)	達成 状況	到達率
① 取組 指標	公共施設における温室効果ガス 排出量	19,637 t-CO ₂ eq	23,796 t-CO ₂ eq	19,201 t-CO ₂ eq	○	100%

(6) -2 主な市の取組（令和4年度実績）

- ・市の施設における節電対策
- ・「エコオフィスプラン2.1」に基づく環境負荷削減の推進

(6) -3 総合評価結果

総評：概ね現行計画の目標を達成しているが、一部の事業内容等を見直し
<ul style="list-style-type: none">●エコオフィスプラン2.1に基づいた取り組みを着実に推進できており、公共施設における温室効果ガス排出量についても目標より高く達成できていることから、市が率先して取り組む姿勢を示せたことについて評価できます。●一方で、計画改定時からの社会動向は大きく変化し、より大きな目標に向かって率先して取り組む姿勢が求められています。大きく変化する地球温暖化施策に対して、より柔軟に対応していくための体制整備も含めて、検討する必要があります。

(7) 目指すべき環境像 人と自然を育み 住みやすさを創るまち

(7) -1 総合評価結果

総評：環境像に向けたまちづくりが着実に進んだといえる
<ul style="list-style-type: none">●現行計画における4つの基本方針及び2つの基盤的取組に関する基本方針ごとに、総合評価を実施した結果、4つの事項について「概ね現行計画の目標を達成している」と評価できたことから、目指すべき環境像である「人と自然を育み 住みやすさを創るまち」に向けたまちづくりが着実に進んだといえます。

2. 計画策定の方向性及び検討すべき事項

第3次立川市環境基本計画は、これまでの取組を継続・推進することを基本としながら、社会情勢の変化や市民の意識、現行計画の総括評価などを踏まえて、方向性や課題を具体化し、計画策定を進めていきます。また、次のステップとなる計画素案の作成に向けて、市民・事業者アンケートの結果や、市民・学生ワークショップによる意見なども参考にし、現行計画の評価及び社会動向等を踏まえて、現時点で想定される検討すべき事項について、以下のとおり整理を行った。

